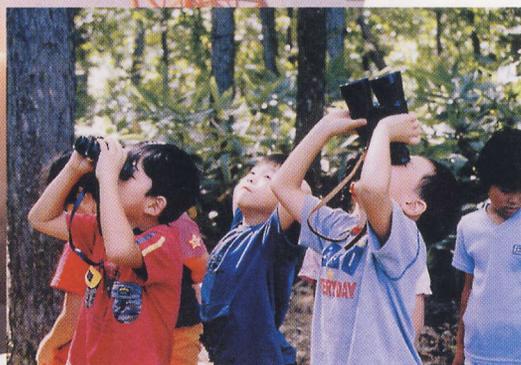


教育の構造改革

画一と受身から自立と創造へ



—新しい時代を切りひらく心豊かで
たくましい日本人の育成を目指して—

文部科学省
平成15年5月

いま求められる教育の構造改革

今、教育への国民の期待が高まっています。

21世紀に入り、世界も日本も、さまざまに難しい問題に直面しています。深い霧の海を進む船のように、将来を見通すことが難しい時代に入っています。このように、我が国が、現に直面している課題、また今後押し寄せるであろう新たな課題を乗り越えて発展し、心豊かで活力ある、国民が希望をもてる社会を築いていくための鍵は、教育をおいてありません。教育に熱い視線が注がれているのは、そのためです。

その観点に立ち、現在、初等中等教育の改革と大学の構造改革を力強く進めております。これは、大きな「教育の構造改革」であり、それを貫く理念は、「画一と受身から自立と創造へ」の転換であります。この理念をよりわかりやすくまとめれば、

- (1) 「個性」と「能力」の尊重
- (2) 「社会性」と「国際性」の涵養
- (3) 「選択」と「多様性」の重視
- (4) 「公開」と「評価」の推進

ということになると思います。

一人の子どもが生をうけ、成長していく間には、小・中・高等学校、大学等、さらには卒業後の生涯学習と、いくつもの段階を通じて学びます。しかし、それぞれの学段階はそれのみで完結するわけではありません。大切なことは、それらを通じて、教育に携わる全ての関係者が心を一つにして、一人一人の子どもたちを“新しい時代を切りひらく心豊かでたくましい日本人”として育てるとの高い志をもち、最善を尽くすことでありましょう。

学校教育は、すでに大きく変わりがつあります。子どもたち一人一人の個性に応じ、その能力を最大限に伸ばす、各学校や地域の創意工夫に富んだ多様な素晴らしい教育が、全国各地で展開されています。この流れをさらに加速していくことが重要です。

教育関係者はもとより、国民の皆さんが、このような教育改革の大きな流れをご理解いただいた上で、未来を担う子どもたちのために、それぞれの場で、愛情と熱意をもってお取り組みくださることを、心から期待しております。

教育の構造改革を進めるための4つの理念 ～社会・人・教育に活力を！～

1. 「個性」と「能力」の尊重

「知の時代」といわれる現代において、確かな学力の向上は、国民一人一人の自己実現を図る上で、また、我が国の競争力の基盤として最重要であり、画一的な方法を改めることが必要。

そのために、初等中等教育では、一人一人の子どもの個性と能力に応じたきめ細かな教育を展開することが大切。

また、高等教育においては、大学が多様かつ高度な学習ニーズに的確に対応し、教育機能の充実に向けた取組が必要。

2. 「社会性」と「国際性」の涵養

豊かな心と健やかな体を培うことは、教育の不易な使命。

今日においては、初等中等教育及び高等教育を通じて、社会性を培う教育活動を展開するとともに、特に若年者の勤労観・職業観の醸成等に総合的に取り組むことが重要。

また、我が国の伝統文化を尊重し、国際社会の一員として教養ある日本人の育成が必要。

3. 「選択」と「多様性」の重視

初等中等教育においては、各学校や地域が、地方分権の流れをしっかりと踏まえ、個性溢れる「顔」の見える学校づくりに切磋琢磨し、国民の多様なニーズに応える選択を可能とする教育の実現に努めることが不可欠。

また、大競争時代の中で、優れた人材を輩出し、先端的・独創的な研究を一層進めるため、「知の創造と継承の拠点」としての個性輝く大学づくりを推進。

4. 「公開」と「評価」の推進

全ての学校が国民への教育の説明責任を果たし、信頼される存在となるため、情報公開を積極的に推進するとともに、適切な評価システムを構築して、教育の質を保証し、不断の検証を図ることが重要。

1 「個性」と「能力」の尊重

OECD「生徒の学習到達度調査」の学力
知識や技能を実生活の場面で活用する力

初等中等教育段階

～確かな学力の向上～

習熟度別少人数授業の成果
(福岡県)
【中学校の数学での指導例】
・テストの成績向上
10ポイント以上アップ
・学ぶ意欲の向上
数学が好き 67%
習熟指導はよい 97%

- ★ 習熟度別指導、少人数授業、発展的・補足的な学習の充実
⇒ 基礎基本を徹底し、個性に応じて子どもの力をより伸ばす

【少人数指導実施校の大幅な増加】
小・中学校とも、3割台(平成12年度) → 6割台(平成14年度)

- ★ 「総合的な学習の時間」の創設
⇒ 学ぶ楽しさを体験させ、学習意欲を高めるとともに「学力の質」の向上を図る

- ★ 教科書検定制度の改善
⇒ 「発展的な学習内容」の教科書への記述を可能に(平成14年度～)

- ★ 全国的な学力調査の継続実施
⇒ 確かな学力の向上の成果を適切に評価

- ★ 教職員定数改善計画の着実な実施
⇒ きめ細かな指導を充実させる配置改善
(平成13～17年度の5カ年で、公費約2千億円の教育投資)
【教員1人当たりの児童生徒数】

欧米並みの水準を実現 小学校 19.2人 → 18.7人
中学校 16.4人 → 15.7人

- ★ 優れた教師の確保
⇒ 「教えるプロ」としての教員の資質の向上

○10年経験者研修の導入(平成15年度～)
○長期社会体験研修の拡充

高等教育段階

～充実した人材の養成～

- ★ 大学の「教育」機能の充実
⇒ 多様な学習ニーズに応え、学生の課題探求能力を育成
・9割を超える大学がカリキュラム改革を実施(平成13年度)

○新たに「特色ある大学教育支援プログラム」を実施(平成15年度～)

- ★ 専門職大学院制度の創設
⇒ 社会をリードするプロフェSSIONALを育成

○国際水準の法科大学院や経営大学院等の形成

初等中等教育段階

★ 豊かな心の育成

⇒ 倫理観・公共心と思いやりの心を育む

- 道德教育の充実(全ての小・中学生に「心のノート」を配布)
- 奉仕・体験活動や読書活動の推進
- 伝統文化に関する教育の充実
- 教育相談体制の整備(スクールカウンセラーの全国配置)

★ 健やかな体の育成

⇒ 健康・体力の向上を図る

- 「子ども体力向上プラン」による総合的方策の展開

★ キャリア教育の推進

⇒ キャリア教育の総合的推進のための新たな施策の展開

- 勤労観・職業観の醸成
- インターンシップ(就業体験)の推進(4割の高校で実施(平成14年度))

★ 英語教育の充実

⇒ 英語力の飛躍的向上を図る

- 『「英語が使える日本人」の育成のための行動計画」に基づく取組

地域と共に「わく・ワーク(Work)体験」
(石川県)

県内の公立中学校2年生と県立盲・聾・養護学校中学部2年生全員を対象に、職場体験等の活動を実施しており、学校・家庭・地域社会が一体となった活動を通じて、子どもたちの勤労観・職業観を育成

高等教育段階

★ 教養教育の充実

⇒ 新しい時代を生きる豊かな教養の涵養

- ・3割の大学でボランティアを取入れた授業を実施(平成13年度)
- ・4割の大学で外国語による授業を実施(平成13年度)

★ キャリア教育の推進

⇒ 社会人等のキャリアアップの充実

- リカレント教育の推進
大学への社会人受入れの拡大
(大学院への社会人入学者数1万人(平成13年度 5年間で2倍))
- インターンシップ(就業体験)の推進
(4割の大学で実施(平成13年度 5年間で3倍))

★ 留学生交流の充実

⇒ 「留学生受入れ10万人計画」の推進

- ・ 約95,000人まで達成(平成14年)

★ 産学官連携の推進

⇒ 大学等を核とする新たなる「知」の創出

初等中等教育段階

～地域の創意工夫を活かした特色ある学校づくり～

★ 小・中学校選択の自由の拡大／高校の学区制自由化

⇒ 児童生徒や保護者の選択を通じた学校の個性化

★ 新しいタイプの学校の設置促進

⇒ 高等学校教育の多様化・弾力化

- 中高一貫教育、単位制、総合学科など

中高一貫教育校の取組
(広島市立安佐北中学・高等学校)

6年間の一貫教育を通じ、国際コミュニケーション能力や情報活用能力を身につけ、国際社会に積極的に貢献できる人間の育成を目指した教育を推進

★ 学級編制の弾力化

⇒ 地方の判断により少人数学級編制によるきめ細かな指導の充実

★ 外部人材の活用

⇒ 社会人等幅広い人材の活用による学校教育の活性化

- 「学校いきいきプラン」の推進
 - 平成16年度までの3年間で5万人を目標に、全国の学校に社会人の協力を求め、各教科や総合的な学習の時間、進路指導などへの支援・補助

高等教育段階

～競争的な環境の中で個性輝く大学づくり～

★ 大学設置認可の大幅な弾力化

⇒ 時代の要請に柔軟に対応した組織編成の促進(平成15年度～)

★ 世界最先端の大学院づくり

⇒ 第三者評価に基づく競争原理を通じた世界的研究教育拠点の形成

- 「21世紀COEプログラム」の推進(平成14年度～)

★ 国立大学の改革

- 国立大学の法人化(平成16年度(予定)～)
 - ⇒ 自律性の拡大、民間的経営手法の導入、弾力的な人事・予算システムへの移行
- 国立大学の再編・統合(101大学→89大学(平成14年度→15年度))
 - 大学・学部の枠にとらわれず教育研究のパワーアップ

★ 私立大学の振興

⇒ 税制改正、私学助成の充実

★ 教員の流動性の向上

⇒ 任期制・公募制による教育研究の高度化・活性化を実現

4 「公開」と「評価」の推進

初等中等教育段階

～開かれた学校・信頼される学校づくり～

★ 学校評価と情報提供の推進

⇒ 学校としての説明責任を果たす

- 学校の設置基準において規定(平成14年度～)

★ 学校評議員の設置促進

⇒ 学校運営に保護者や地域住民の声を反映

- 全国の半分の公立学校で設置(平成12年度～)

★ 教育委員会の活性化

⇒ 地域に根ざした教育行政の展開

- 保護者を教育委員に
- 教育委員会会議を原則公開(平成14年～)

★ 教員の新しい評価システムの構築と指導が不適切な教員への厳格な対応

⇒ やる気と能力に応じた処遇の実施

学校評議員制度を活用した学校評価システム(岐阜県)

高等学校においては、教育委員会の定めた項目と学校独自の項目について、保護者や学校評議員などが診断票に基づき4段階で評価し、その結果を自己評価に反映

高等教育段階

～大学の教育研究の質保証システムの確立～

★ 自己点検・評価の実施

⇒ ○ 平成3年の大学設置基準の大綱化以降の着実な取組

自己点検・評価 → 9割達成(平成13年度)

大学における学生による授業評価 → 8割達成(平成13年度)

★ 第三者評価制度の導入(平成16年度～)

⇒ ○ 国公私の全大学への第三者評価の実施の義務付けと社会への結果の公表を通じた教育研究の不断の改善

教育を取り巻く課題

直面する危機の克服、新しい時代にふさわしい教育の実現のため、教育基本法など根本に遡った各教育分野にわたる改革が必要

子どもの状況

(1) 学力

基礎学力の平均は国際的に高いレベルだが、学ぶ意欲に課題

総合読解力	1位/フィンランド 2位グループ/カナダ、ニュージーランド、オーストラリア、アイルランド、韓国、イギリス及び 日本
数学的リテラシー	1位グループ/ 日本 、韓国及びニュージーランド
科学的リテラシー	1位グループ/韓国及び 日本
宿題や自分で勉強する時間	最下位/ 日本 (27カ国中)

(OECD 平成12年)

(2) 生活

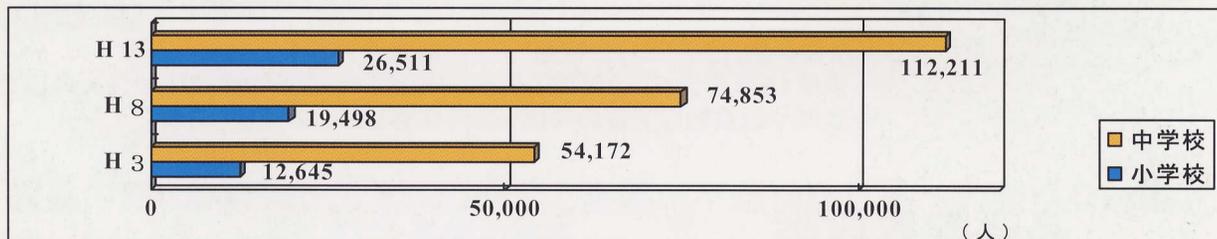
【体 力】 昭和60年頃から低下(例)持久走(13歳女子1,000m)が25秒以上も遅く(文部科学省 平成12年)

【意 識】 自己イメージが否定的で、社会への貢献などに低い目的意識

	日本	アメリカ	中国
私は他の人々に劣らず価値のある人間である	8.8%	51.8%	49.3%
計画を立てたら、それをやり遂げる自信がある	9.8%	54.2%	32.8%
社会のために役立つ生き方をするのが非常に重要	32.3%	38.5%	44.0%

(日本青少年研究所 平成13~14年)

【不登校】 児童生徒数の増加



(文部科学省 平成14年)

【勤労観】 20~34歳の2割弱がフリーター (内閣府 平成15年)

社会と学校

【期待と評価】 期待が高いからこそ、厳しい評価

	重要度	満足度
小・中学校で子どもの能力を伸ばせる教育が受けられること	73%	14%
高校で各人に適した教育が受けられること	71%	13%

(内閣府 平成14年)

【大 学】 研究に比べ、大学教育の充実を求める強い声

【世界の論文数の日本占有率】 2位(1位アメリカ)(米国科学情報研究所 平成13年)

【企業からの要望】 「学部教育の充実」がトップ(日本経済団体連合会 平成15年)

【予 算】 GDPに対する公財政支出の比率(1999)

	初中教育	高等教育	全体
アメリカ	3.5%	1.1%	4.9%
イギリス	3.3%	0.8%	4.4%
フランス	4.1%	1.0%	5.8%
ドイツ	2.8%	1.0%	4.3%
韓国	3.2%	0.5%	4.1%
日本	2.7%	0.5%	3.5%

(注) 「全体」には、就学前教育等が含まれるため、初中・高等教育欄の合計に一致しない

(OECD教育インディケータ 2002)